

都市再生整備計画 事後評価シート  
吉田・広丘地区

令和2年2月

長野県 塩尻市

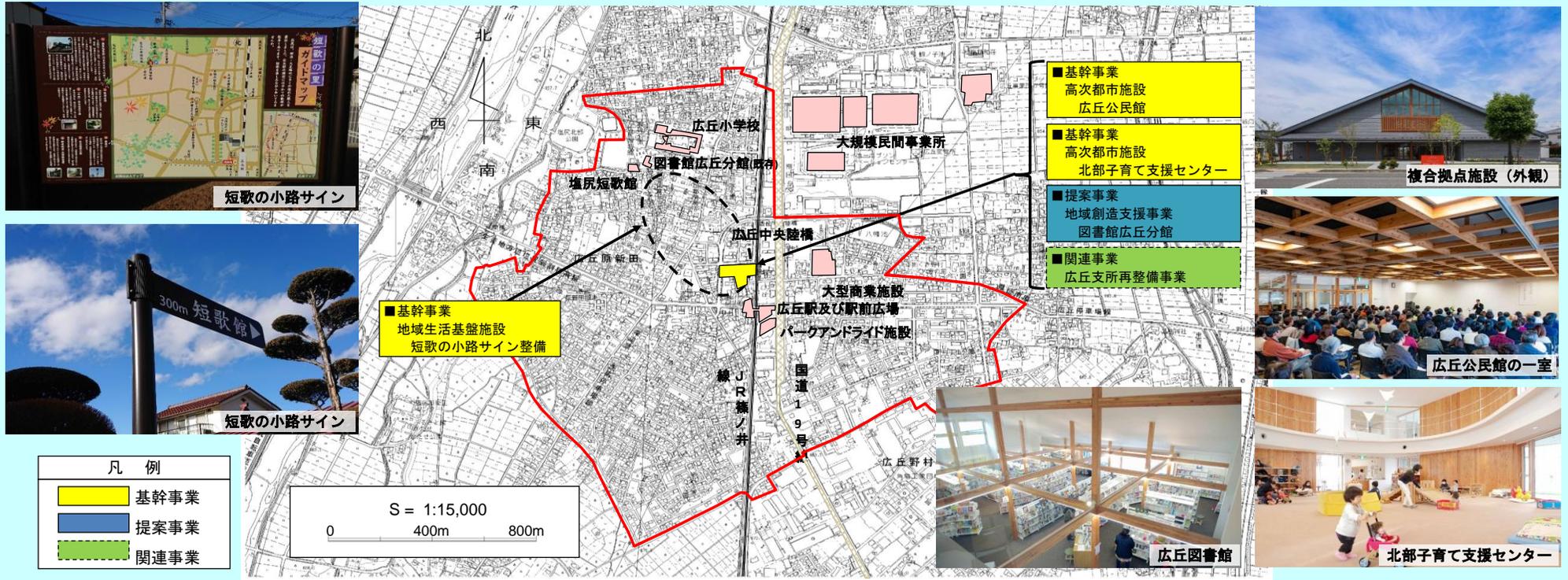
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県	市町村名	塩尻市	地区名	吉田・広丘地区			面積	143ha			
交付期間	平成29年度～平成31年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	1245.5百万円	国費率	0.387					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
	基幹事業		【高次都市施設】広丘公民館、北部子育て支援センター 【地域生活基盤施設】短歌の小路サイン									
	提案事業		【地域創造支援事業】広丘図書館									
			事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし									
		提案事業	なし									
新たに追加した事業	基幹事業	なし										
	提案事業	なし										
交付期間の変更	当初	平成29年度～平成31年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
	変更	なし										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	街なか回遊者	人	2,917	H27	3,010	H31	3,472	○	あり	整備した拠点施設には公民館活動を行うシニア世代や勉強に励む小中学生、高校生、リモートワークを行うビジネスマン等様々な目的を持った人が集まっている。これまで各公共施設が分散し、駅から離れた場所に点在していたことで自家用車に依存した移動を行っていた利用者も、徒歩や自転車での施設を利用するようになり、結果として歩行者等通行量の増加に繋がったものと推察される。また、広丘駅と塩尻短歌館を結ぶ経路に案内サインを整備したことにより、回遊性の向上や「短歌のふるさと」の景観づくりにも繋がった。	-
	指標2	吉田地区・広丘地区に居住する人口比率	%	26.2	H28	26.8	R2	26.8	○	あり		
									なし	子育て世代及びシニア世代の交流・活動拠点の整備によって住環境の向上が見込まれたことなどを受け、事業の本格化以降、広丘駅周辺の既成市街地における低未利用地の宅地化が進んだ。平成30年度には民間開発によって駅周辺に集合住宅が建設されるなど、民間投資の機運も高まっている。全国的な人口減少もあり、平成28年度から令和元年度にかけて全市的には人口が592人減少したが、対象区域の人口は233人増加しており、本事業をとおして塩尻市立地適正化計画で定めた重点居住誘導区域内に居住を誘導することができた。	-	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
その他の数値指標1	-											
4) 定性的な効果発現状況	塩尻地区都市再生整備計画事業として整備したJR篠ノ井線広丘駅東口のパークアンドライド駐車場や本計画において駅至近に交流拠点となる施設を整備したことで市街地内の徒歩での移動や公共交通機関の利用を促すことに繋がり、低炭素社会の実現に向けた素地を整えることができた。											
5) 実施過程の評価			実施内容			実施状況			今後の対応方針等			
	モニタリング		-			都市再生整備計画に記載し、実施できた			-			
			-			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			-			
			-			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			-			
住民参加プロセス		-			都市再生整備計画に記載し、実施できた			-				
		-			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			-				
		-			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			-				
持続的なまちづくり体制の構築		-			都市再生整備計画に記載し、実施できた			-				
		-			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			-				
		-			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			-				

## 様式2-2 地区の概要

### 吉田・広丘地区(長野県塩尻市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
歴史と文化を育み、ふれあいや交流がひろがるまちづくり 目標①: 歴史と文化が息づき、訪れたいなるまち 目標②: 多様な世代・背景を生かしながら住み続けたいなるまち	街なか回遊者	単位:人	2,917 H27	3,010 H31	3,472 H31
	吉田地区・広丘地区に居住する人口比率	単位:%	26.2 H28	26.8 R2	26.8 R2
	—	単位:			
	—	単位:			
	—	単位:			



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支所、公民館、子育て支援センター、図書館を合築した複合施設を整備したことにより、様々な目的を持った幅広い世代の住民が集い交流する場を創出することができた。</li> <li>○広丘駅と広丘商店街の至近に集客効果のある複合施設を整備したこととまちの文化である短歌を案入るサインを整備することで回遊性が向上し、周辺飲食店への波及効果も生まれた。</li> <li>○居住地決定の要因となりうる公共施設を立地適正化計画で定める都市機能誘導区域に整備したことで、周辺の居住誘導区域に人口を誘導することができた。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集客効果のある複合施設を核としつつも周辺の公共施設や事業者と連携し、地域住民のニーズに応えと共、来街者との交流を促進し、地域の活性化やまちの賑わいの創出、交流人口の拡大を目指す。</li> <li>●古くから地域で生活する住民と新たに移住してきた住民の価値観や文化の違いを受け入れ、「新しいふるさと」を醸成する。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
高次都市施設	広丘公民館	506.7	提案事業と合築 床面積 A=942㎡	540.9	提案事業と合築 床面積 A=845㎡	第1回変更(平成29年12月)で、実施設計成果により国費率・事業費・事業規模を変更 第2回変更(平成31年1月)で、要素事業の精査により事業費・事業期間を変更 第3回変更(令和2年3月)で、実績値確定により事業費を変更	影響なし	●	
高次都市施設	北部子育て支援センター	250.9	提案事業と合築 床面積 A=467㎡	320.9	提案事業と合築 床面積 A=501㎡	第1回変更(平成29年12月)で、実施設計成果により国費率・事業費・事業規模を変更 第2回変更(平成31年1月)で、要素事業の精査により事業費・事業期間を変更 第3回変更(令和2年3月)で、実績値確定により事業費を変更	影響なし	●	
地域生活基盤施設	短歌の小路サイン整備	10.0	地図サイン2か所 矢印サイン3か所	8.9	地図サイン2か所 矢印サイン3か所	第3回変更(令和2年3月)で、実績値確定により事業費を変更	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと



添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし
指標1	街なか回遊者	人	-	2,917	H27	3,010	H31	モニタリング		モニタリング			
								事後評価	確定見込み ● 3,472	事後評価	○		
指標2	吉田地区・広丘地区に居住する人口比率	%	-	26.2	H28	26.8	R2	モニタリング		モニタリング			
								事後評価	確定見込み ● 26.8	事後評価	○		
指標3								モニタリング		モニタリング			
								事後評価	確定見込み	事後評価			
指標4								モニタリング		モニタリング			
								事後評価	確定見込み	事後評価			
指標5								モニタリング		モニタリング			
								事後評価	確定見込み	事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	整備した拠点施設には公民館活動を行うシニア世代や勉学に励む小中学生、高校生、リモートワークを行うビジネスマン等様々な目的を持った人が集まっている。これまで各公共施設が分散し、駅から離れた場所に点在していたことで自家用車に依存した移動を行っていた利用者も、徒歩や自転車で施設を利用するようになり、結果として歩行者等通行量の増加に繋がったものと推察される。 また、広丘駅と塩尻短歌館を結ぶ経路に案内サインを整備したことにより、回遊性の向上や「短歌のふるさと」の景観づくりにも繋がった。	
指標2	子育て世代及びシニア世代の交流・活動拠点の整備によって住環境の向上が見込まれたことなどを受け、事業の本格化以降、広丘駅周辺の既成市街地における低未利用地の宅地化が進んだ。平成30年度には民間開発によって駅周辺に集合住宅が建設されるなど、民間投資の機運も高まっている。 全国的な人口減少もあり、平成28年度から令和元年度にかけて全市的には人口が592人減少したが、対象区域の人口は233人増加しており、本事業をとおして塩尻市立地適正化計画で定めた重点居住誘導区域内に居住を誘導することができた。	
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	-	-	-		-		モニタリング			
							事後評価	確定		
その他の数値指標2							モニタリング			
							事後評価	確定		
その他の数値指標3							モニタリング			
							事後評価	確定		
その他の数値指標4							モニタリング			
							事後評価	確定		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

塩尻地区都市再生整備計画事業として整備したJR篠ノ井線広丘駅東口のパークアンドライド駐車場や本計画において駅至近に交流拠点となる施設を整備したことで市街地内の徒歩での移動や公共交通機関の利用を促すことに繋がり、低炭素社会の実現に向けた素地を整えることができた。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	都市計画課、広丘支所、広丘公民館、北部子育て支援センター、広丘図書館	令和2年9月18日	都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標	指標
指標名		街なか回遊者		吉田地区・広丘地区に居住する人口比率	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【高次都市施設】広丘公民館	◎	整備した拠点施設には公民館活動を行うシニア世代や勉学に励む小中学生、高校生、リモートワークを行うビジネスマン等様々な目的を持った人が集まっている。これまで各公共施設が分散し、駅から離れた場所に点在していたことで自家用車に依存した移動を行っていた利用者も、徒歩や自転車で施設を利用するようになり、結果として歩行者等通行量の増加に繋がったものと推察される。 また、広丘駅と塩尻短歌館を結ぶ経路に案内サインを整備したことにより、回遊性の向上や「短歌のふるさと」の景観づくりにも繋がった。	◎	子育て世代及びシニア世代の交流・活動拠点の整備によって住環境の向上が見込まれたことを受け、事業の本格化以降、広丘駅周辺の既成市街地における低未利用地の宅地化が進んだ。平成30年度には民間開発によって駅周辺に集合住宅が建設されるなど、民間投資の機運も高まっている。 全国的な人口減少もあり、平成28年度から令和元年度にかけて全市的には人口が592人減少したが、対象区域の人口は233人増加しており、本事業をとおして塩尻市立地適正化計画で定めた重点居住誘導区域内に居住を誘導することができた。
	【高次都市施設】北部子育て支援センター	◎		◎	
	【地域生活基盤施設】短歌の小路サイン整備	◎		-	
提案事業	【地域創造支援事業】広丘図書館	◎		◎	
	【広丘支所再整備事業】広丘支所	◎		○	
関連事業					

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	整備した複合施設を地域コミュニティ活性化の拠点とすべく、施設の活用について住民と行政が協働体制で検討を行っていく。また、周辺商店街への波及や地元事業者との連携の下、既成概念に捕らわれない新たな公共施設の在り方を模索していく。		
-------	--	--	--

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3		その他の数値指標4					
指標名		-											
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見				
基幹事業			-										
提案事業													
関連事業													

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	-				
-------	---	--	--	--	--



(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	都市計画課、広丘支所、広丘公民館、北部子育て支援センター、広丘図書館	令和2年9月18日	都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
若い世代を中心とした市外からの移住者が多いため、子育てや市民活動等の多様な世代や背景を反映した暮らしと、従来の地縁を基盤とした暮らしを両立・融合させた地域コミュニティの再構築が求められている。	支所、公民館、子育て支援センター、図書館を合築した複合施設を整備したことにより、様々な目的を持った幅広い世代の住民が集い交流する場を創出することができた。	交流の場をいかに活用して地域コミュニティの再構築や新たな価値観・文化を創造していくかが今後の課題である。	
駅前パークアンドライド施設の整備等により鉄道駅利用者等の来街者が増加しているが、まちに息づく歴史と文化が認知され、魅力を感じ回遊を生むことにより、まちの賑わいに繋がる仕組みづくりが求められている。	広丘駅と広丘商店街の至近に集客効果のある複合施設を整備したこととまちの文化である短歌を案内するサインを整備したことで回遊性が向上し、周辺飲食店への波及効果も生まれた。	なし	
社会全体の少子高齢化の進展により、吉田地区・広丘地区においても将来的に人口が減少局面に転じることが想定されることから、都市機能や居住を適切に誘導することで人口密度の維持が図られることが必要である。	居住地決定の要因となりうる公共施設を立地適正化計画で定める都市機能誘導区域に整備したことで、周辺の居住誘導区域に人口を誘導することができた。	なし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	交流拠点を活用した地域の賑わいづくり	集客効果のある複合施設を核としつつも周辺の施設や事業者等と連携し、地域住民のニーズに応えるとともに、地域内の活動に留まらず来街者との交流も促進し、地域の活性化やまちの賑わいの創出、交流人口の拡大を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合施設で行われる公民館行事や講座、イベントの充実や図書館と子育て支援センターのリソースを融合させたこれまでにない子育て世代を対象とした催しの企画</li> <li>マルシェや交流スペースを活用した催しの充実と、これらとの相互連携による世代間交流の推進</li> <li>居心地の良い空間づくりによる居場所の創出</li> <li>文化祭や夏祭りなどの地域イベントの振興や商店街とタイアップしたイベント等の開催</li> </ul>

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	地域コミュニティの活性化と再構築	古くから地域で生活する住民と新たに移住してきた住民の価値観や文化の違いを受け入れ、「あたらしいふるさと」の醸成に向けた取り組みを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こども」を中心に、多様な世代をつなぐため、高齢者等比較的時間に余裕のある住民によるこども達の見守りや学習支援、遊び、文化の継承</li> <li>まちの文化として大切にされてきた短歌に移住者が触れる機会を創出するため、塩尻短歌館と連携した催しを開催</li> <li>シニアを対象に軽運動やパソコン講座、趣味講座等を開催し、常に新しいものに触れる機会づくり</li> </ul>

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
				年度		年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	街なか回遊者	人	2,917	H27	3,010	H31	確定 ●	3,472	○	あり	→		
							見込み						
指標2	吉田地区・広丘地区に居住する人口比率	%	26.2	H28	26.8	R2	確定 ●	26.8	○	あり	→		
							見込み						
指標3							確定			あり	→		
							見込み						
指標4							確定			あり	→		
							見込み						
指標5							確定			あり	→		
							見込み						
その他の数値指標1	-						確定				→		
							見込み						
その他の数値指標2							確定				→		
							見込み						
その他の数値指標3							確定				→		
							見込み						
その他の数値指標4							確定				→		
							見込み						

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくり理念に基づき、評価指標を居住人口ではなく全市人口に占める居住人口割合としたことで、全体的な人口減少下であっても居住誘導の成果が評価できるように工夫できた。	
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		・指標に市民意識調査の項目を追加するなどし、アンケート等による調査結果も追加して目に見えないものを見る化する工夫が必要である。
	うまくいかなかった点	地域の課題であった地域コミュニティの希薄化等がどのように解消、改善されたのか、評価することができなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		・計画の立案から評価に至るまでの過程で更なる住民参加を促進するようつくり込みが必要である。
	うまくいかなかった点	・計画策定時に市民意向を丁寧に汲み取ったり、事業実施後の市民満足度を図る手段が講じられていなかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	塩尻市公式ホームページに掲載	令和3年1月12日～1月25日	令和3年1月12日～1月25日	担当課窓口への郵送、FAX、Eメールなど	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	-				
説明会・ワークショップ	-				
その他	塩尻市役所窓口での閲覧	令和3年1月12日～1月25日 (土日を除く)	令和3年1月12日～1月25日 (土日を除く)		

住民の意見	住民から意見は出されなかった。
-------	-----------------

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	地域シンクタンク2名、地元大学教授等3名	令和3年2月	企画政策部経営戦略課	塩尻市行政評価委員会 条例	塩尻市行政評価委員会
その他の委員	地域活動団体・NPO代表3名、労働団体代表1名、金融機関代表1名				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	成果指標のうち、街なか回遊者の実績値が目標値を上回っているとともに、全市人口に占める吉田地区・広丘地区居住者の割合も目標を達成しており、成果の評価が妥当であると認められた。
	実施過程の評価	実施過程が適正に実施されていることが確認された。
	効果発現要因の整理	効果発現要因の整理が適切に行われていることが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案が市民に分かりやすく公表されたことが確認された。
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当に進められたと認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	地域内の活動に留まらず来街者との交流も促進し、地域の活性化やまちの賑わいの創出、交流人口の拡大を目指すためにも、本計画における事業と、他の定住促進策などの相互の連携を図るなど、関連事業との横断的な連携を図っていくことが必要であるとの意見が出された。
	フォローアップ	フォローアップの時期と方法が適切であると認められた。
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	委員会の開催予定時期に緊急事態宣言が発出されたため、委員会の年度内の開催が見送られた。本件意見聴取結果については、委員長に資料を送付し、書面にて意見を求めたもの。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

# 都市再生整備計画(第3回変更)

よしだ ひろおか  
吉田・広丘地区

長野県 しょじり  
塩尻市

令和2年3月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長野県	市町村名	しおひ 塩尻市	地区名	よしだ ひろおか 吉田・広丘地区	面積	149 ha
計画期間	平成	29	年度	～	令和	元	年度
交付期間	平成	29	年度	～	令和	元	年度

目標	歴史と文化を育み、ふれあいや交流がひろがるまち
	1. 歴史と文化が息つき、訪れたいなるまち
	2. 多様な世代・背景を生かしながら住み続けたいなるまち

目標設定の根拠	<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>塩尻市は、長野県の中央部に位置し、東京方面・名古屋方面・長野方面からの交通が結節するとともに、信州まつもと空港が立地する交通の要衝であり、国道(19号、20号、153号)沿線及び鉄道駅(塩尻駅、広丘駅)を中心として市街地が形成されてきた。また、昭和46年に市街化区域及び市街化調整区域、昭和48年には用途区域を指定することで、コンパクトな市街地形成を進めるとともに、自然や農村と都市が調和した田園都市の実現を図ってきた。</p> <p>市の北部に位置する吉田・広丘地区は、民間大規模事業所の立地、工業団地の造成、松本広域圏の中核である松本市との隣接により、市外からの人口流入が多く、年少人口や生産年齢人口の割合が高い区域である。同時に、近代短歌の歌人を多く輩出した地「短歌の里」として、歴史・文化を資源とした市内外における新たな交流を目指し、市民協働によるまちづくりが進められてきている。中でも広丘駅周辺は、塩尻市都市計画マスタープラン(平成20年～令和10年)において北部拠点として位置づけられ、平成23年度には広丘地区地域づくり振興会が中心となり「まちづくり勉強会」が発足、次いで平成24年度にはまちづくりの担い手を育む「まちづくりワーキンググループ」が立ち上げられた。その結実として、平成24年度から平成28年度を計画期間とする都市再生整備計画(塩尻地区)において、平成25年度に広丘駅周辺市街地総合再生計画の策定を住民協働により進めるとともに、拠点機能の強化を目指して、駅周辺にパークアンドライド施設等を整備してきたところである。</p> <p>加えて、今後も継続する人口減少・少子高齢化に対応した持続可能な都市空間とするため、区域内に点在し、老朽化した公民館や子育て支援センター、図書館、支所等の公共施設を、統合一体化した複合型拠点施設として再整備するよう要望書が地区から提出され、その整備に当たっては地域産木材を活用する等、森林資源を生かした市街地環境の整備を先導する方針を、地域再生計画「森林資源の循環活用による持続可能な田園都市づくり計画」(平成27年1月認定)において掲げてきたところである。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い世代を中心とした市外からの移住者が多いため、子育てや市民活動等の多様な世代や背景を反映した暮らしと、従来の地縁を基盤とした暮らしを両立・融合させた地域コミュニティの再構築が求められている。</li> <li>駅前パークアンドライド施設の整備等により鉄道駅利用者等の来街者が増加しているが、まちに息づく歴史と文化が認知され、魅力を感じ回遊を生むことにより、まちに賑わいに繋がる仕組み作りが求められている。</li> <li>社会全体の少子高齢化の進展により、吉田・広丘地区においても将来的に人口が減少局面に転じることで想定されることから、都市機能や居住を適切に誘導することで人口密度の維持が図られることが必要である。</li> </ul>
将来ビジョン(中長期)	<p>塩尻市は、第五次総合計画(H27-R5)において「住みよい持続可能な地域の創造」を基本戦略に掲げ、中期的には「新たな交流・集約の推進」を施策として打ち出している。</p> <p>人口が集中している吉田・広丘地区においても、流入する新たな人々や居住する多様な世代が、「短歌の里」など地域に根付く歴史・文化の魅力を共有しながら、集積した都市機能により確かな暮らしが実現できることにより、将来的にも持続可能な都市空間が形成されることを目指す。</p>

目標を定量化する指標								
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値		
					基準年度		目標年度	
街なか回遊者	人	広丘駅周辺3地点における平日12時間の歩行者等交通量	広丘駅利用者を中心とした来街者が回遊し、まちの賑わいが増すことを目指す。	2,917	H27	3,010	H31	
吉田地区・広丘地区に居住する人口比率	%	住民基本台帳における4月1日時点の吉田地区及び広丘地区居住人口が全市人口に占める割合	都市機能の集積と、地域コミュニティの再構築により、区域への移住者や定住者の増加を目指す。	26.2	H28	26.8	R2	

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【整備方針1】 歴史と文化が息づき、訪れたいくなるまちづくり</p> <p>・広丘駅利用者が地域に息づく短歌にまつわる歴史・文化を認知し、魅力を感じてまちを回遊することを促すため、駅から塩尻短歌館を結ぶ経路等にサインを整備する。</p> <p>・地域の歴史文化資源である短歌に係る資料を収集・情報発信する図書館広丘分館を、公民館、子育て支援センター、支所と合築する。</p>	<p><b>基幹事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域生活基盤施設 情報板</li> </ul> <p><b>提案事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域創造支援事業 図書館(図書館広丘分館)</li> </ul>
<p>【整備方針2】 多様な世代・背景を生かしながら住み続けたいくなるまちづくり</p> <p>・従来から居住する市民だけでなく、市外からの新たな移住者等により随時余暇活動やイベント等が開催されることにより、住民相互の交流を生み出すため、広丘公民館を、子育て支援センター、図書館、支所と合築する。</p> <p>・行動に制約がかかりやすい乳幼児等を養育する世代の活動を支援するため、現在区域の周辺部に位置している北部子育て支援センターを、交通便利性の高い広丘駅周辺へ整備するとともに、公民館、図書館、支所と合築する。</p> <p>・子育て世代等を中心として確かな暮らしを支援するため、広丘駅周辺への金融機関(八十二銀行82プラザ広丘、JA塩尻市ローンセンター、ショッピングセンターGAZA内保険各社)の集積を生かしたファイナンシャルプラン等の情報・資料を収集・発信する図書館広丘分館を、公民館、子育て支援センター、支所と合築する。</p>	<p><b>基幹事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高次都市施設 地域交流センター(広丘公民館) 子育て世代活動支援センター(北部子育て支援センター)</li> </ul> <p><b>提案事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域創造支援事業 図書館(図書館広丘分館) (再掲)</li> </ul>
<p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続する人口減少・少子高齢化に対応した持続可能な都市空間を形成するため、市北部地域については、広丘駅周辺に都市機能の立地を誘導するとともに、令和2年に予定されている都市計画マスタープランの改訂と合わせ、居住を誘導する区域等の検討を行う。</li> <li>・自然と農村、都市が調和した田園都市を実現するため、公共施設の整備に当たっては地域産木材や再生可能エネルギー、木製品の活用により、地域に豊富に存在する森林資源が市民にとって身近なものとなるとともに市街地環境の整備に生かされるといった森林資源の循環を目指す。</li> </ul>	

